

【知事からの説明】

新田知事より 資料（別添）により富山県成長戦略会議「中間とりまとめ」について説明

【グループ発表①～⑥】

①幸せ人口1000万人実現プロジェクトです。私たちのチームでは大きくまとめると人が集まらないと、という話でした。まずは小矢部市の魅力を皆が認識しなければならない。それと もっと若い人を集めよう。若い人を集めるためにどうするのか。例えば婚活と言っても若い人はなかなか足が前に出ない。いろんなことが携帯で分かっている。そういう中で、都市部や石川県、近隣の市町村から若い人たちに小矢部にいろんなアイデアをくれと、集まってくれと。そこでこのようなグループディスカッションをしようということで、そこには小矢部を知ってもらう体験ツアー、いろんないい場所があります。そういったところに連れて行く。稲葉山から見える星と一緒に見る。いろんなことを体験してもらって小矢部を体感してもらいSNSで発信してもらう。それで人を集めて行こうということが私たちのチームの案です。

知事：まずは小矢部の皆さんが小矢部の魅力を知る。メルヘンの町いろんな魅力があると思います。認識をすることが大切、まさにその通りだと思います。小矢部の若者たちが知らないことがたくさんある。それを体験させるツアー大切なことだと思います。今タダでいろんな発信ができる時代なんです。それを活用しない手はないということですね。是非皆さん一人一人が情報の出し手になってそれぞれの関係人口があるはずです。その人たちに伝える。今の時代はどんなにいいことをやっても伝わらなきゃゼロ。そんな時代なんです。だからどんどん伝えて欲しいと思います。

市長：アイデアを見させて頂いて本当にいつも頭を抱えている課題でありまして。小矢部には素晴らしい観光資源も歴史的資源も文化的資源も沢山あるわけですが、どうやって活かすかどうやって発信していくか大きな課題であります。SNSの活用をしっかりとさせていただきたいなと思います。

②私たちのチームはウェルビーイングというキーワードで集まりました。3点小矢部市と県が連携していけたらいいなと思ってあげさせていただきました。小矢部市は空き家が非常に多くて対策に困っているということと、山間部を中心に自然を使った空間が多いので、それを掛け合わせて県外から人を呼べるような集客ができるようなキャンプ場や、思い切ったことができるようなものを誘致して交流人口を増やしていきたいなと思います。

2点目は、交通物流のクロス点である小矢部市を物流集積所、拠点として近隣の空港と港とリンクした上で。

3点目です。リカレント教育ということで50-60代の先輩方が勉強できる場が欲しいということです。

知事：物流拠点というのは小矢部のひとつのあり方になるのではと思いました。それから空き家問題はどのまちにいても出てきます。空き家がまだ旬なうちに使い道を考える。最後は大執行で壊すということになる。それが一番もったいないしコストもかかるんです。そうなる前にマイナスをプラスにするような発想をどんどん出して行って欲しいと思います。

市長：中でも実現したいなと思うのは物流の拠点。小矢部市は高速道路網であったり、幹線道路であったり、本当に交通の要所でありまして、地理的優位性は高いと思っております。これを活かさない手はないなと常々思っております。ぜひそういったところにチャレンジをしていきたいなと思っております。もう一つ伝統文化の継承というところで特にこのコロナ禍の中で非常に大切なことだと思っております。人と人との繋がりがだんだん希薄になってきていると思いますので、これをつなぎとめるのはまさに伝統文化だと思っております。小矢部には三大祭りというものがございますのでしっかりと守っていききたいなと思っております。

③ブランディングを中心にしたチームです。小矢部のいいところ100選を市民の皆さんから募りまして、その前に小矢部の100選を集めるためにはまずは市民がいいところを知らなくては行けない。知ると好きになる。各地域でいいところをピックアップしていただいて小矢部の100選を作って行けたらいいなと思っております。

それから大人の学校。中学校小学校が空き室が多くなって統合がどうという話もありますが、空き室を利用して大人の学校を作る。地元の大人もそうですけれども県外から留学という形で来ていただく。それは民泊にも繋がっていくということだと思っております。

三つめは、メルヘン牛の飼育体験。My牛、小矢部は鶏も名物なのでMy鶏というかたちで資本を出していただいて飼育体験をすればいいんじゃないかと思っております。

知事：小矢部の100選を作って自分のまちを知る。まちづくりをする上で必要だと思えます。宝物探しをどんどんやっていただきたい。それが小矢部愛につながるというのは本当にそうだと思います。先ほどもリカレント教育の話がありましたが20年学んで30年働いて後は老後という時代ではないのです。一生学んで一生働いて最後はピンピンコロリ。これが今の人生の望ましいパターンです。ただ空いた校舎を使うのはいいのですが、教え手が誰になるのかがポイントになると思います。それからメルヘン牛体験。投資してもらってこれも是非やってください。

市長：小矢部のホームページはあんまり面白くないという意見も頂いておりますので、面白い楽しいホームページにしたいなと思っております。メルヘン牛の飼育体験、大変素晴らしいアイデアだと思います。これは感染症対策をしっかりとしていかなければいけない部分もありますので、もう少しお時間を頂いて検討をさせていただきたいと思っております。小矢部のいいところ100選は大賛成です。ぜひ一緒に頑張ってください。

④テーマはスタートアップとまちづくりの合体でございます。富山県が成長するにはまず小矢部市が成長しないとならないということで、小矢部市に特化したポイントをまとめてみました。まずホッケーのまち。これを徹底的に広めるし、選手の力をもつけるということを考えていきたいと思っております。オリンピック選手が出るということになりますと、小矢部市民富山県民に大きな希望を与えてくれます。活躍してくれると私たちも本当にワクワクします

し、選手の頑張りから力を得るということで、小矢部と言えばホッケーということをしかりと未来につなげていきたいと思います。

交通の便クロスランドという点を活かして知恵を出し合えばできることがあるのではないかと。

若い人の居場所づくりをしていきたいということで、これから学校の統廃合もありますが、既存施設を有効に活用していけばいいのではないかとということです。

知事：ホッケーがやっとでました。私もやっぱり小矢部といえばまずホッケー。オリンピック選手も出られました。それから高校でも頑張っておられます。これを表に出していくことは大きな武器だと思います。選ばれませんでした。木曾義仲。桜井市長も頑張っています。是非小矢部の人からまず発信してください。木曾義仲どんどん発信しましょう。

市長：木曾義仲と巴を何とかNHKの大河ドラマにしようと思ひまして13年目になりますけれども。皆さんもご存知の通り、来年には鎌倉殿の13人ということで義仲も出演するという事です。是非来年の大河ドラマ見ていただきたいなと思います。それからホッケーのまち。一生懸命力を入れていきたいなと思っておりますし買い物難民対策非常に悩ましいと思っております。中心市街地の方々が高齢化されていらっしゃいますので、弱者の方々をどうやって支援していくかということは行政の大きな課題だと思っております。

⑤まちづくりグループです。USJのようなテーマパークを誘致して若い人が盛り上がりければ良いのではないかとアイデアが出ました。次に稲葉山のロープウェイ構想。アウトレットに若いお客さんやいろんな方が集まるのでそこから365mの小さな山ですが稲葉山にロープウェイを繋いで景色を見てもらおうという案が出ました。

若者の遊ぶ場所づくりということで、クロスランドだったりファミリー層が遊べる場所はあるのですが、10代20代の若者が遊べるような場所が少ないのではないかと。

僕の暴走でノースフェイス山を作るというのを書いたんですけども、富山県繊維協会というのは実は小矢部市にありまして、技術を持っている繊維会社がたくさんあるんですね。ポールスミスさんの下請であったりとか。ゴールドウィンなんてノースフェイスさんだったりとか。繊維業界の会社さんが頑張っておられるので小矢部として発信をするべきではないかということです。

知事：ゴールドウィンさんに関する提案が初めて出ましたね。ノースフェイス山これはゴールドウィンさんとコラボしてぜひ実現できればと思います。稲葉山ロープウェイは市長にお任せします。それから遊び場づくり。昨日実は氷見のYouTuber金子さんという元気な女性にインタビューされましたが、彼女も県外からの移住の人です。遊び場がないよねじゃあ自分で作ろうということで今ガンガンやっています。USJもいけれど地元なりの遊び場を自分たちの手で作っていく。無いものは作れば良いじゃないかとぜひ取り組んでいただきたいと思ひます。

市長：おかげさまで平成27年にアウトレットモールを誘致いたしまして、なんとなく小矢部が賑やかになったような気がしますけれども、そこにUSJと言いますとどれだけワクワクするまちづくりができるんだろうと思ひます。ロープウェイは20年前からずっと議論をされて

いてよくよく考えると大きな課題もありまして結局断念をせざるを得ないという状況が続いております。今ゴールドウィンさんが大きなプロジェクトを立ち上げられておりますけれどももちろん小矢部市もそこにエントリーをしております。必ずや創業の地である小矢部市に何かしらの施設が来るんだらうと大いに期待しております。

⑥私達は幸せ人口1000万人ということで話し合いました。1番目に防災ボランティアコーディネーター。これは女性議会でも言わせていただいたのですが、防災士というのはハードルが高いのでボランティアコーディネーターということを設定したらどうか。

二つ目に定住支援。小矢部市の方で地下鉄の釣り輪に表示されて新聞にも載ったと思います。その経緯を見ていきたいなと思います。関係人口を増やした人にポイントっていうのも話し合いました。

最後に生きやすい社会の実現。人権問題ですよね。LGBTですとか皆さんが理解して一緒になるためにはどうすればいいか。大きい問題なんですけれども、どうすればいいかなと思っております。

知事：幸せというふわっとしたイメージですが、その基盤は安全安心です。そのためにこの防災ボランティア、それをコーディネートする人を育てようとてもいい視点だと思います。それから人権の事もいくつか書かれています。SDGsの基本精神誰一人取り残さないこれはまちづくりの基本の考え方だと思っています。まちづくりだけじゃなくてDXもそうです。これだって誰一人取り残してはいけない。みんなの役に立つDXにしていく。その基本的な考え方大変大切だと思いました。

市長：防災ボランティアコーディネーターについては女性議会でも答弁をさせて頂いてありますがありがとうございました。しっかりと取り組んでいきたいと思っております。それから定住支援、テレワークするなら小矢部が一番ということで載せていただきました。山手線のつり輪に仕掛けをさせていただいたのですがすごく評判が良くて。移住体験を試みようかという方もいらっしゃって本当にありがたいと思っています。今日いろいろお話を聞いていますと、やっぱりウェルビーイングを上げていくには、個人的にいつも思っておりますのは、近きもの喜び遠き者来たるというかとにかくやっぱり小矢部市民の皆さんにいつもありがとうと言っていたりするような行政を継続的にやっていけば必ずやそれを聞きつけて遠くからやって来ていただけるような方が増えるのだらうと思います。改めてこのことを肝に銘じて頑張っていきたいと思っております。

【振り返り】

参加者：新田知事、民間出身でいろんな柔らかい感覚、市民と触れ合うこんな場、今までありませんでしたっけと思ってきました。小矢部の応援市民に登録して頂いて名刺を配って小矢部市外から来た方に特典がありますよとか交流人口を増やすのがいいのかなと思ってきました。楽しかったです。

参加者：色んな意見が聞けて楽しかったです。おそらくここに来ている時点で普通の人ではないと思うんですけども。小矢部を何とかしようという人が今日集まっているので出てく

るアイデアも本当に小矢部を何とかしなければという、普通に生活している人では思いつかないような秀逸なアイデアがいっぱい出てきたので、一人一人の方のアイデアを全部聞きたいぐらい聞いていて面白かったです。住んでいる人たちがどうやって自分の仲間や自分の暮らしと地域の人たちと折り合いながら自分たちでまちづくりがどうやってできるのかなと、市民ひとりひとりが考えられたらとってもいいまちになるのになと思いました。

参加者：いろんな方がいろんな意見を持っているなと思いました。僕自身ドローンの営業で県内を飛び回って撮り回ったりして、富山どこも綺麗だなーっていうところから地元には何かあるんだろうということが気になったりして。歴史系のことを考えていらっしゃる方が結構いるなと思いました。若者に向けてどう発信するかとか、今後小矢部市の課題として考えていけたらもっと面白いまちになるのではないかと思います。稲葉山ロープウェイ構想の話も20年前から出ていたということを知って興味深いなと思いました。

参加者：10年前に高岡から小矢部に引っ越してきた時最初に始めたのは地元の地名をちゃんと読めるようにすることでした。当時道が割りと同じ風景が続いていて自分の家に帰れないことが何回かあったんです。今は解消されましたが。これからは友達をたくさん作って小矢部をたくさん宣伝できる存在になっていきたいと思います。

参加者：私は小中学校は地元の学校にいたのですが、思い返してみれば郷土のことを勉強したことはなかったです。郷土を愛するためにはまずは小学校中学校から週に1時間でもいいから郷土史の勉強とか民謡の勉強とかそういうのをやっていけば富山県小矢部市を愛する人が増えていくのではないかなと思います。

参加者：今回参加させて頂いて小矢部の事を本当に考えている人がたくさんいるということを知りましたし、人と人との繋がりがなくてこういう場がないとやっていけないと思うので、今回はすごく良い場だったのではないかなと思います。自分でも地域で獅子舞をやったりメルヘン劇団をやったり男女共同参画をやったり小矢部市のいろんな人と関わりを持たせて頂いています。今回の出会いを大切にまたこういう場で話し合いができればいいなと思っています。

参加者：今日の参加者の中で私が一番長老でないかなと思っています。戦前生まれの男でございます。我々の街は非常に祭りが盛んな小矢部なんですよ。私も20代の頃は東京、大阪、名古屋と単身赴任で行っていたのですが、一番思い出すのは祭り前日の祭囃子の音ですね。心のふるさとというのは祭りではないか。これはここに生まれた人間にしかわからないのですがそれがやっぱり地元に戻って来る仕掛けになると思います。今日は若い方からエネルギーをもらいまして、また一步一步前進して勉強していきたいと思いました。

参加者：今日はこれだけの素晴らしい意見を出される方がたくさんいらっしゃるんだなということを感じました。私は生まれは小矢部なのですが、東京とかいろんな地域を回っていた時期があって帰ってきました。立山連峰の景色はどこにもない景色なんですね。今まで私自身もいろんなイベントを仕掛けてきましたが是非皆さんと一緒にやっていけたらなと思いました。

参加者：女性活躍と言われながら議会を見ると、小矢部市は女性が一人しかいない。女性議員をもっと増やしていくべきではないかなと思います。女性議員を増やす会みたいなものを作ればいいかなと思います。ヨーロッパでも昔は男性議員が非常に多かったのですけれども、半分は女性でないと議会は開かないというところまで法制化して、今は半分ぐらいが女性になっている。それぐらいの強い覚悟で、頭の固い男ばかり集まってもなかなかいいアイデアが出ませんので女性議員を増やしたいと思います。

参加者：先ほど市長さんから木曾義仲の話がありまして思ったことがあります。小矢部市の歴史や文化を学ぶことも大事だなと思いました。石動で昔ながらの町名で獅子舞をだしています。町名のいわれを学ぶことも大切だなと思いました。歴史を学ぶイベントもたくさん行われていまして青年会議所では大谷さんの歴史を学べるように本を無料で出されていろんな活動をされていらっしゃる方がいるので、昔の人に学ぶことってたくさんあるなと思います。

参加者：今日の大きなテーマとしてウェルビーイングという言葉がありましたけれども、住んでいる私たちがそれぞれに幸せを実感して、それが子供に繋がっていくんじゃないかと思います。我々が実感しないと子供に伝わらない。子供が実感しないと小矢部市内から出て行っても戻ってこない。我々が今生き生きと元気にしていることによってそれを見ている子供が大人っていいな地元っていいな。仮に出て行ったとしても大人になって地元で生活しようというようなことになればいいのではないかなと思ひまして、我々自身がそれぞれの基準で幸せになっていければいいなと思っております。

参加者：小矢部元気がないなと思っていたのですが今日ここに集まったたくさんの方々を見て小矢部まだまだ安泰だなと思います。自分たちがもっと小矢部のいいところを気づかないといけないし知らないといけない。知らないことはまだまだいっぱいあると思いますし。明日からできることとして、私は児童会の会長をしておりますので子供達に小矢部のいいところを知ってもらうことをしていきたいなと思います。メルヘン牛のハンバーグお弁当に入れて食べさせるということもやっているんですけど、美味しいものがあるんだよということとか、ゴールドウィンさんに見学に行こうという話があってこんなにいい会社があるんだよということも知ってもらいたいとか。続けていきたいなと思います。もう一つは、私は金沢の会社に勤めているのですが、同僚や部下が家を建てるとき金沢の1/5で住めるんやぞとか、30分で電車で行けるぞとか小矢部に住んでということをどンドン言って、少しでも小矢部の税収に寄与したいなと思います。

参加者：今日は年齢を超えたコミュニティとして沢山の方とお話できたことが何より楽しかったと思います。素晴らしい人たちがめっちゃくちゃたくさんいるなと感じていまして、ここにいるメンバーで同じベクトルに向かっていけば強いものになるのではないかなと思いました。